



The United Nations
University



ゼロエミッションシンポジウム2006

「サステナビリティを考える」

日時 2006年10月20日(金) 9:30~17:45
場所 UNハウス(国連大学) ウ・タント国際会議場
東京都渋谷区神宮前5丁目53-70

主催 : 国際連合大学, 国際連合大学ゼロエミッションフォーラム,
共催 : 日本学術振興会ゼロエミッション第168委員会(予定)
豊橋技術科学大学21COE「未来社会の生態恒常性工学」(予定)
後援 : 経済産業省、環境省
日本放送協会(NHK)、アメリカ大使館
日本経済新聞社、読売新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社 (順不同 申請中)
対象 : 企業経営者、環境部門担当、経営企画・設計、生産部門、地方自治体、環境NGO・NPO
研究機関、教育関係の方々
規模 : 約300名
参加費 : 無料 (主催、共催組織の会員以外の方の懇親会参加費: 有料)

開催趣旨

有限な地球と折り合って生きていくための新しい概念としてサステナビリティ(持続可能性)というキーワードが注目されています。

今日の豊かな生活は地球資源を過剰に消費し、有害廃棄物を自然界に一方的に排出し続けることによって支えられています。その結果、未来世代は劣悪な自然環境の中で暮らすことを強いられる恐れがあります。

過去、現代、未来を生きるすべての人類世代が豊かな地球の恵みを継続して、公正、公平に享受できる地球の利用の仕方が求められています。サステナビリティにはそうした願いが込められています。そのためには、

有限な地球の認識、生態系の完全な保全、未来世代への利益配慮

などが必要条件になります。

サステナブルな社会を構築するためには、これまでの常識やライフスタイル、企業行動を乗り越えた新しい哲学、理念、行動様式が求められており、すでに様々な挑戦が行われています。

今回のシンポジウムでは、そうしたサステナビリティを実現するための新しい理念、考え方、行動様式、さらに具体的な提案などを外国の識者を交え、幅広い観点から検討したいと思っています。

サステナビリティにご関心のある方の参加を歓迎します。(日英同時通訳)

ゼロエミッションシンポジウム2006

- サステナビリティを考える -

- プログラム -

9:30 開会の辞 藤村 宏幸 (国際連合大学ゼロエミッションフォーラム 会長)

9:45 歓迎の辞 ハンス・ファン・ヒンケル (国際連合大学 学長)

「基調講演」

10:00 「Finding Hope in the Millennium Ecosystem Assessment」
Dr. Richard B. Norgaard (Prof. of Energy and Resource Group of Agriculture
and Resource Economics Univ. of Calif. Berkeley)

「真の進歩指標」

11:00 「サステナビリティの科学的基礎に関する調査について」
山本良一 (東京大学 生産技術研究所 教授)

11:45 「サステナビリティと本当の豊かさ」
大橋照枝 (麗澤大学 国際経済学部 教授)

12:30-13:45 昼休み

「ステーションナリーステート(定常状態)の経済」

13:45 「サステナビリティと人口減少時代の日本」
三橋規宏 (千葉商科大学 政策情報学部 教授)

14:30 「サステナビリティと企業における環境経営」
堀内行蔵 (法政大学 人間環境学部 教授)

15:15-15:30 休憩

15:30 「サステナビリティと社会経済システム」
植田和弘 (京都大学大学院 経済学研究科 教授)

「エコロジカルフットプリント」

16:15 「Sustainability Accounting with the Ecological Footprint」
Mr. Justin Kitzes (Manager, National Accounts Program, Global Footprint Network)

17:00 「日本に於けるエコロジカルフットプリントについて」
和田喜彦 (同志社大学 経済学部 助教授)

17:45 終了

17:45-19:15 「懇親会」 (於: UNハウス2階レセプションホール)

(都合により、プログラム内容を変更する場合がございます。予めご了承ください。)